

学会記事

2022年度第5回(定例) 理事会議事録

日時: 2023年4月15日(土) 14:00-17:30
【WEB会議形式】

出席者: 出席理事43名, 出席監事2名

・会長1名: 岡田 誠
・副会長2名: 杉田律子・星 博幸
・常務理事1名: 中澤 努
・副常務理事1名: 緒方信一
・執行理事13名: 保坂(内尾)優子・内野隆之・尾上哲治・加藤猛士・狩野彰宏・亀高正男・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
・理事会議長1名: 芦 寿一郎
・理事会副議長1名: 小松原純子
・理事23名(議長・副議長を除く): 青矢陸月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・大橋聖和・笠間友博・神谷奈々・亀田 純・本郷(川村)紀子・北村有迅(14-15時出席)・桑野太輔・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・高野 修・西 弘嗣・野田 篤・細矢卓志・保柳康一・榊原(堀)利栄・三田村宗樹(17時退出)・山路 敦・山本啓司

監事: 岩部良子・山本正司

欠席者: 欠席理事7名

・理事: 清川昌一・平出(黒柳)あずみ・斎藤 眞・菅沼悠介・松田博貴・道林克禎・矢鳥道子

* 成立要件: 理事総数50名の過半数26名 本日の出席者43名で本理事会は成立。

* 議決: 出席者の過半数22名

* 開催にあたって, 大橋理事および大友理事を書記に指名した。

* 会議開催にあたり, 岡田会長より, 挨拶: 新体制となって2年目に入った。会員数の減少に歯止めをかけることが課題であり, 若手会員の増加やダイバーシティの向上をさらに図っていききたい。

* 前回議事録確認

報告事項

1. 執行理事会報告(中澤常務) 昨年12月以降の執行理事会議事録に基づいて説明が行われた(2023京都大会でのマスク着用, 定款・規則類の整理が進行中であること, フォトコンテストの審査結果, 地震火山地質子どもサマースクール, 関東大震災100周年関連事業, 共通テストの地学関連科目に対する地質学会からの意見について(ほか))。

2. 総務委員会(亀高理事)

・会員動静について報告された。

・ご逝去された会員(4名)について報告があり, 黙祷を行った。

・オンライン会員システムの公開準備が概ね完了した旨, 資料に基づき説明がなされた。また選挙システムについて, 7月末を目処にシステムを作成したい, との報告があった。

・亀高理事より, 資料に基づいて今年の永年顕彰者の紹介がなされた。

70年顕彰者: 2名(1952年度入会者: 2022年度会費まで納入済) 加藤 昭・久保誠二

60年顕彰者: 5名(1962年度入会者: 2022年度会費まで納入済) 福富幹男・宮沢忠治・原田正史・菅野重也・大口健志

50年顕彰者: 12名(1972年度入会者: 2022年度会費まで納入済) ※1973年1~3月入会者のみ, ※1972年1~12月入会者は2022年顕彰者。小林哲夫・佐々木哲・柴 正博・鈴木清一・高橋正樹・但馬達雄・錦織英機・増田俊明・矢鳥道子・矢野孝雄・山口廣文・吉野博厚

40年顕彰者: 58名(1982年度入会者: 2022年度会費まで納入済) 相田 優・油井 裕・荒川竜一・飯島 力・石井秀明・伊與田紀夫・内田 克・大石 徹・大野裕記・大箸義人・大和田正明・岡田浩明・兼子尚知・北川明照・栗原秀平・郷家正志・越谷 信・榊原孝雄・佐々木理・佐々木浩・佐藤尚弘・重田寿夫・篠原 暁・柴崎俊明・柴田 尚・清水公二・清水秀登・末武晋一・杉山和稔・鈴木桂子・鈴木英雄・角井朝昭・隅田まり・仙石昭栄・曾野哲人・多賀 優・高木哲一・高見智之・田野崎隆雄・千葉茂樹・辻 喜弘・寺戸真・戸栗和広・飛田健二・中村康雄・野口一郎・野 誠二・野田芳和・久国浩之・堀内誠示・松岡敬二・松田博貴・峯崎智成・山路敦・百合野俊彦・横山義人・吉田英一・渡辺真司

3. 行事委員会(高嶋理事・山口理事)

・学術大会関連: 高嶋理事より, 学術大会の進捗状況について, 資料に基づいて報告がなされた。2023年京都大会は, 16のトピックセッションを採択した。地質情報展・市民講演会の科研費は不採択。巡検案内書は7件が査読中, 未提出は2件。2024年山形大会は, 会期2024年9月8日(日)~10日(火), 8コースの巡検を計画中。2025年大会は熊本大学で開催予定。

・ショートコース: 山口理事より, 第6回ショートコース(2022年12月18日開催)および第7回ショートコース(4月2日開催)の実施報告がなされた。第7回は, 応募者が定員(70名)を超えたため, 10月頃に同内容(応力逆解析法)で再度実施予定とのこと。

4. 専門部会連絡委員会(尾上理事)

資料に基づいて各専門部会の2022年度活動報告報告がなされた。

5. 地質学雑誌編集委員会(小宮理事)

資料に基づいて編集状況の報告がなされた。現在23編が査読中であるが, さらに多くの投稿を期待している。

6. アイランドアーク編集委員会(狩野理事)

資料に基づいて編集状況の報告がなされた。投稿状況は順調である。受理率は60%程度。IFは1.3程度で去年より下がる見込み。

7. 地質技術者教育委員会(坂口理事)

第3回JABEEシンポジウム(3月5日開催, YouTube公開中)の実施報告と, CPD単位

の重み係数の変更について, 口頭で説明がなされた。新しいCPD単位については, ジオスクーリングネットや学会HPを参照してほしいとのこと。

8. 地質の日(矢部理事)

2023年「地質の日」の学会関連の各種行事の案内があった。5月13日(土)に3つのジオパークを取り上げたオンライン普及講演会を実施する(YouTube配信)。

9. 若手育成事業検討WG(内野理事)

研究奨励金に関する書式や通知の準備状況が報告された。また, フィールドワーク賞の賞金について10万円に定めたとの報告がなされた。

10. ジオパーク支援委員会(天野理事)

市民対象公開シンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学: 古代からの自然観を今に活かす」(2023年1月28日開催)の実施報告がなされた。参加者214名のうち, 約7割が非会員で, 会員以外に多数参加いただくという目的を果たした。また高齢参加者が多く, 各地域のジオガイドの参加が多かったことを反映していると考えられる。参加者の満足度は高く, イベントとしては成功した旨報告がなされた。

11. 名誉会員推薦委員会(星副会長)

名誉会員推薦における「推薦プール制度」の廃止について, 次回9月理事会での審議に向けて説明がなされた。2013年に定められたプール制度は, 推薦者の誤解を招きかねず, 今後の推薦候補者選定に支障が出る懸念があること, 候補者推薦におけるメリットが小さいことなどから廃止を提案したいと考えている。

12. ジェンダー・ダイバーシティ委員会(堀理事)

男女共同参画学協会連絡会(日本地質学会加盟)から, 任期付き研究者の雇用問題解決に向けて, 要望書「若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる」が発表・公開されたことについて, 説明がなされた。

13. 若手有志会(下岡理事, 桑野理事, 神谷理事)

・地質系業界オンライン交流会実施報告: 下岡理事より, 資料に基づいて地質系業界オンライン交流会(2023年2月17日開催)の実施報告がなされた。今後も同様のイベントを継続して実施したい意向であることが述べられた。

・若手巡検準備状況: 桑野理事より, 資料に基づいて若手巡検(7/8-9実施予定, 北海道洞爺湖有珠山ジオパーク)の準備状況について報告がなされた。5月参加申込受付開始予定。

・京都大会若手宿泊プラン: 神谷理事より, 資料に基づいて若手宿泊プランについて説明がなされた。宿泊施設は関西セミナーハウス(6200円/泊)を予約済みであり, 募集や運営は若手有志会が担当する旨報告された。

14. その他

山口理事より、資料に基づいて学生優秀発表賞の具体的な選考過程について説明がなされた。2022年12月10日の理事会からの変更点として、当日多忙なLOCを評価者候補から外すこととした旨報告があった。

審議事項

- 1) 名誉会員候補者の選出 (星副会長)
名誉会員推薦委員会から推薦された名誉会員候補者について資料に基づき審議が行われ、候補者2名を総会に諮ることが承認された。
- 2) 各賞受賞者の決定 (山路理事)
各賞選考委員会山路委員長から受賞候補者等の選考結果が報告され、審議の結果、以下の受賞が決定した。
学会賞 (1件) 道林克禎会員
功績賞 (2件) 小山内康人会員、佐藤比呂志会員
都城秋穂賞 (該当なし)
Island Arc Award (1件) 田村芳彦氏
H. E. ナウマン賞 (該当なし)
小澤儀明賞 (1件) 沢田 輝会員
柵山雅則賞 (1件) 大柳良介会員
論文賞 (4件) 入月俊明会員ほか、内野隆之会員ほか、野田篤会員ほか、吉田健太会員ほか小藤文次郎賞 (該当なし)
地質学雑誌特別賞 (該当なし)
研究奨励賞 (4件) 原田浩伸会員、佐久間杏樹会員、鈴木康太会員、山岡 健会員
フィールドワーク賞 (2件) 江島圭祐会員、羽地俊樹会員
日本地質学会表彰 (該当なし)
- 3) 研究奨励金支給対象者の決定 (内野理事)
研究奨励金選考委員会内野委員長から2022年度研究奨励金審査結果が報告され、奨励金支給対象者5名を承認した (柴田翔平会員、遠藤悠一会員、江島圭祐会員、志関弘平会員、杉浦 慶会員)。なお、内1件については使途の一部が対象外であると判断し減額したこと、審査結果の詳細を応募者に通知すること、単なるサンプリング調査は対象外であることなどが報告された。また、磯崎理事から、倫理的には当然のことであるが、過去にハラスメントや研究不正があった者は、奨励金応募や賞の推薦人・被推薦人になれないことをどこかに明記した方がよい、関連学協会でも同様の措置がとられているとの意見があった。これについて、中澤理事より表彰制度検討WGで検討したいとの返答があった。
- 4) 選挙規則類の改正 (杉田副会長)
代議員、理事のダイバーシティ確保および電子投票への対応を主な目的とした、選挙規則類改正の経緯と考え方について、杉田理事より規則の新旧対照表を元に説明がなされた。所属区分別定数 (旧所属別最低充足数) に加え、新たに40歳未満の正会員及び性別の属性別定数を設け、それら理事の一定数確保を目指す。審議の結果、改正案を総会に諮ることが承認された。
- 5) 若手活動運営委員会設立 (下岡理事、神谷理事)

- ・非公式な組織であった若手有志会を学会の正式組織 (若手活動運営委員会) とする提案が前回12月理事会で承認され、それに基づき、委員会設立の準備が進められた。担当理事より趣意書、構成委員、予算案、規則案等が説明され、審議の結果、若手活動運営委員会の設立が承認された。
 - ・辻森理事より、規則中の“若手”の定義 (満35歳以下の正会員) について、学会全体での整合性や共通認識が大切ではないかとの意見があり、学会における“若手”の定義について、執行理事会、理事会で継続して議論することとなった。
- 6) 「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助 (内野理事)
若手育成事業検討WGの内野理事より、「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助について説明があり、承認された。今後学術大会等の巡検代金 (昼食代、現地までの交通費は除く) の半額が補助される。
 - 7) IGC2024に関して (岡田会長)
継続的に情報共有・協議してきたIGC2024の問題に関して、岡田会長より最近の動向として、今年2月に公開された1st circularには懸案事項であった竹島巡検および海洋呼称は含まれていないことと、3月13日付で韓国LOCから会長宛に送付された手紙には1st circularを公開したことが示される一方、それら懸案事項について直接の言及はされていないことなどが説明された。西理事 (学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会委員長) より、IUGS分科会はIGCへの参加・協力については、個人または各組織の判断に委ねる方針である旨説明があった。また、JpGUの4月1日付メッセージ (「万国地質学会議 (IGC) 2024開催について」) の内容を理事会で確認した。意見交換、審議の後、公式には状況は変わっていないことから、地質学会としてサポートレーターを撤回した立場を変更することは難しいという認識で一致した。一方、1st circularには懸案事項が含まれないなどの現状について、会長から会員に対して報告することとなった。
 - 8) 2022年度事業実績概要 (中澤常務)
2022年度事業実績概要 (案) について、12月理事会以降に実施された事業等について記述が追加された旨の説明がなされ、本事業実績概要 (案) を総会に諮ることが承認された。
 - 9) 2023年度事業計画 (岡田会長)
2023年度事業計画骨子 (案) について、12月理事会以降の追加点として、学会HPのリニューアル、若手活動運営委員会等若手活動の支援・推進などを追加した旨説明があり、本事業計画骨子 (案) を総会に諮ることが承認された。
 - 10) 2022年度決算概算 (亀高理事)
2022年度決算概算について、資料に基づき亀高理事から説明がなされ、審議の結果、本決算概算を総会に諮ることが承認された。未払いの過年度会費などがあり、会員数は減少したが会費収入は増収、雑収入もショートコー

ス・業界説明会などで増収、支部・部会活動はコロナの影響があり収入・支出ともに減収した。地質学雑誌オンライン化のため、印刷・通信費が抑えられたこと、学術大会会場費がかからなかったため早稲田大会はコンパクトな収支となったことなどが共有された。全体収支は、最終的には増収となり、引当金の取り崩しはなかったことが報告された。雑誌オンライン化の影響もあり全体として約390万円の黒字であるが、新たな会費制度 (院生会費の軽減等) が2023年度から始まるため、来年からは大きな黒字は見込めない見通しであるとの指摘がなされた。また、辻森理事からは、Wiley社からのIsland Arc関連収入 (約200万円) がいつまで続くか懸念する声が上がった。このような契約は希で、見直しの時になくなるかもしれないとのことである。

- 11) 2023年度予算案 (亀高)
2023年度予算案について、資料に基づき亀高理事から説明がなされ、審議の結果、本予算案を総会に諮ることが承認された。なお、会員数は年5%減で会費収入を計上していること、2023年度より新たに「若手育成事業」の項目を設け、収支が計上されていることなどが説明された。学術大会や支部活動など、コロナ前の活動を想定した事業費を予算計上しており、学会HPのリニューアルや選挙システム構築の費用も計上したため、全体として支出が大きくなり、600万程度引当金を取り崩す予定であることが示された。
- 12) 支部活動報告および承認 (杉田)
支部活動報告について、資料に基づき杉田理事から説明がなされ、承認された。
- 13) 総会議案の決定 (中澤)
総会議案について、資料に基づき中澤理事から説明がなされた。例年の議案に加え、運営規則 (学生優秀発表賞に関するもの) および選挙規則の変更があることが示された。審議の結果、承認された。

監事報告

岩部監事より：審議事項が多い中で活発な議論があった。特にIGC2024への対応について、学会としてどのように会員に周知していくか、丁寧な議論がなされた。今後とも韓国側の動静に注視して対応をお願いしたい。
山本監事より：これまで長年、学会の財務状況を見てきたが、状況悪化は食い止められつつあると思う。今後もオンライン会員システムの構築、ダイバーシティの推進など、News誌のオンライン化も含めて、引き続き改革していく必要があるだろう。
中澤常務理事より：次回の総会は6月3日 (土)。理事会は9月9日 (土) いずれもWebでの開催を予定している。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・

捺印する。

2023年5月2日
理事：議長 芦 寿一郎
理事：副議長 小松原純子
代表理事：会長 岡田 誠
理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星 博幸
監事：山本正司
監事：岩部良子
理事：出席理事名 (省略)

2022年度 第9回執行理事会議事録

日程：2023年4月8日(土) 13:00-18:30
【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、星 博幸、中澤
努、緒方信一、内尾(保坂)優子、内野隆
之、尾上哲治、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正
男、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森
樹、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥
監事：山本正司、岩部良子
事務局 澤木
*定足数(過半数：10)に対し、執行理事18
名の出席
*前回22-8(3/4)議事録案確認
事務的な修正を行い、承認された。

報告事項

1. 全体的報告
2. 運営財政部会(亀高・加藤)
1) 総務委員会
<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・三浦半島活断層調査会主催 視察会「観音
崎の地層と関東大震災の傷跡をたどる」
〔「地質の日」の行事：6/4実施〕への後援
依頼があり、承諾した。
・資源・素材学会役員就任挨拶(書面)(会
長：笹木圭子〔九州大学大学院〕)。
・計測自動制御学会役員就任挨拶(書面)
(会長：高橋桂子〔早稲田大学〕)。
・防災科学技術研究所理事長就任挨拶(書
面)(理事長：寶 馨)
・2024-2025年開催藤原セミナー募集案内
(7/31締切)【→ニュース4月号, geo-
flash4/4掲載】
・伊藤科学振興会研究助成公募(宇宙地球科
学分野)の案内(7/5締切)【→ニュース4
月号, geo-flash4/4掲載】
・令和5年度日本学術振興会志賞候補者推
薦依頼(学会推薦5/12締切)【→ニュース4
月号, geo-flash4/18掲載】
<会員>
1. 今月の入会者：10名
正会員一般(2名)：久森洗希、高橋浩一
正会員学生(8名…単年度：3名, 2年バック：
3名, 3年バック：2名)：岩城昂平、片桐星
来、原野あゆ、丹羽美春、関山優希、小林唯
乃、工藤駿平、DONG Wenzhao

2. 今月の退会者 なし
3. 今月の逝去者 なし
4. 2023年3月末会員数
賛助：27, 名誉：37, 正会員：3069〔正会
員：2950, 院割：112, 学部割：7〕合計
3133(昨年比-74)
5. その他【回覧資料あり】
①2022年度未退会者(107名, 正会員：102名,
正(院割)：5名)
②2022年度未除籍者(正会員62名)
③新・永年会員顕彰制度の顕彰者77名(名簿
あり, 4月理事会にて報告予定)。
対象者：顕彰年度の前年度までにそれぞれ40
年, 50年, 60年, 70年間の会費を納入した会
員。
<会計>
・2022年度決算案, 2023年度予算案(→審議
事項へ)
<その他>
・オンライン会員情報管理サイトについて
(亀高)：テストランを実施し, システムを
修正した。修正結果を反映させたマニュアル
を作成し, 4~5月中に会員への公開を行
う予定。
・選挙投票システムを準備中, 7月中にシス
テムを完成させ, 8月にテスト予定。
3. 広報部会(内尾・松田)
1) 広報委員会(内尾)
特になし
4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)
1) 行事委員会(高嶋・山口)
・2023京都大会
▷トピックセッション16件を採択(昨年比
+3)。
▷(株)アカデミックブレインズに大会運
営を委託することとした
▷2023年度科研費(地質情報展・市民講演
会)は不採択となった
▷LOCシンポジウムの現状
▷巡検案内書編集状況(全9コース：巡検6
件【A~F】、アウトリーチ巡検1件【O】、
ワークショップ2件【W1, W2】)査読後
小修正で著者へ返却：3件(C, W1,
W2), 査読後, 未返却(結果は小修正)：
1件(G), 査読中：2件(D, F), 未提
出：2件(B, E), 差し戻し：1件(A)
▷市民講演会：講演1：「歴史記録と地質か
らみた京都の地震」(産総研：小松原 琢
氏) / 講演2：「微小地震から見た京都周
辺の地震活動と地震を起こす力」(京大
学：飯尾能久氏)を予定
▷LOCシンポジウム「白亜紀フレアアッ
プ(仮題)」世話人：河上哲生(京大
学)・谷健一郎(国立科学博物館)を
検討中
▷学生の宿泊プランを若手有志会, LOC
を中心に検討中。理事会にて状況報告が
予定されている。
▷地質系業界説明会は, 今年も対面(9/18)
とオンライン(9/22)での開催を予定。
オンライン開催予定日が他の行事と重複

しないことを本執行理事会にて確認し
た。

・2024山形大会の状況
▷巡検案が出そろい, 案内者への依頼終
了。コースの詳細を案内者に依頼中(以
下コースの予定, 1)蔵王山(伴 雅雄)
/2)山寺の地質と文化地質学(田宮良
一・大友幸子・荒木志伸) /3)テフラ・
地すべり(八木浩司) /4)山形県中西部
の地質と化石(長澤一雄・本山 功)
/5)鳥海・飛鳥 未定/6)松島(高嶋礼
詩) /7)蔵王山 鉱床と西蔵王(井村
匠) /8)基盤岩類 未定/)
▷案内書編集委員会：山崎 誠(秋田大：
編集委員長), 大場 司(秋田大)星出
隆志(秋田大), 根本直樹(弘前大), 西
川 治(秋田大)
▷旅行代理店は山交観光株式会社に決定。
▷アウトリーチ巡検「山形城遺跡と石材」
(齋藤・大友)は, 学会巡検とは別枠で
実施を予定しており, 案内書の地質雑へ
の掲載無し。
▷山形大学との共催, 後援があれば会場費
の減額措置がある見込み(4/10確認)。
・7回ショートコース(山口)：2023年4月2日
(日)応力逆解析法についての基礎・実習
を開催した。申込者数69名, 参加者のうち
希望者は当日の講義内容(動画)を期間限
定で視聴可能(4/10-18), 定員で締切った
が, さらに参加希望が寄せられているた
め, 10月に同内容を再度行うことを検討
中。
・8回ショートコース(山口)：2023年6月予
定で「年代測定」をテーマとして講師打診
中。
2) 専門部会連絡委員会(尾上)
・各部会より年次報告を収集中, 4/15理事会
報告予定。
3) 国際交流委員会(辻森)
・IGC韓国LOCからのレター(23/3/13付)
への対応(→審議事項へ)
4) 地質標準化委員会(内野)
特になし
5. 編集出版部会(狩野・小宮)
1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)
(1)編集状況報告(2023年4月5日現在)
・2023年投稿論文：23〔内訳〕論説6(和文
6), ノート2(和文2), レター3(和文3),
報告3(和文3), フォト1(和文1), 討論1
(和文1), 巡検案内書7
査読中：33, 受理済み：1
・129巻：公開済み21, 入稿・校正中1
(2)その他
・特集号「コンクリーション」が完成(構成
原稿が全て公開)。会員優先で冊子体購入
の予約受付を開始した(会員価格2,600円,
5/31締切)。
・129巻オンデマンド印刷の受付を終了した
(希望者9名)。公開論文の分量に合わせて
適宜冊子体を作成・送付する。
・京都大会巡検案内書について, 著者から原